



令和5年度

港区立青南幼稚園 経営計画

園長 新山 裕之

園のビジョン、私たちの使命

青南を みんなの 心のふるさとに 一心の根っこを育てよう

幹や枝葉が立派な木は、地面の下に根っこがしっかり育っています。青南幼稚園には、シンボルツリーである楓や桜をはじめ、多様な木々が幹太くたくましく枝葉を伸ばしています。その木々はまさに、将来の日本を背負って立つ子どもたちになぞらえられます。私たちは、子どもたちが個性豊かな立派な木々として育つために、その根っこを丁寧に育てます。

身近な人や自然との関わりから生まれる遊びや生活を通して、個性豊かな子どもたち一人一人に寄り添い、人への信頼感を基盤とした主体的に生きる構えを育てます。

4月からは長く続いた新型コロナウイルス感染症対策から解放された生活となります。この間にはICT環境の整備、園児数と職員数の減少、今春にはボルダリングの設置もあり、今年度は様々に変化した環境や状況下での保育となります。昨年度までの園内研究の成果を大切に、恵まれた自然環境を生かした実践を継続していきます。行事の進め方などは、単純にコロナ以前のやり方に戻るのではなく、現状に適した方法を工夫し、教職員の働き方改革も進めていきます。

保護者との情報共有、意見交換も丁寧に言い、子どもたちを真ん中に置いて、保育や園運営の改善を図ります。親子活動なども含めた保護者と一緒に取り組む活動を工夫し、子どもに関わるみんなが育つ、みんなが育つ保育を目指します。みんなで知恵を出し合いながら、日々の遊びや生活を大切に一人一人に寄り添う保育を通して、子どもたちの心と体を育みます。

子どもへの深い愛情をもち、思いやりの心をもって支え合うことができるチーム力に感謝しながら、教職員がそれぞれの個性を生かした保育を進められるよう、園運営を工夫します。

幼稚園に関わる全ての人たちの力を集め、子どもたちはもちろん、教職員、保護者にとっても心に深く刻まれ、その後の人生を支える「心のふるさと」となるような日々を共に創り出していきます。

1 目指す幼稚園像

- (1) 子どもとの応答的な関係を大切にし、
共に創り出す遊びや生活を通して、子どもが伸びる幼稚園
- (2) 遊びや生活の充実のために、
環境のもつ教育的価値を踏まえて、東京で一番手入れの行き届いた幼稚園
- (3) 南青山という地域性や施設環境、職員組織、学級編成などの特徴を生かし、
地域や園の強みに注目した遊びや生活を展開し、みんなが誇りと思える幼稚園
- (4) 異学年・地域・青山アカデミーの関わりを大切にし、
様々な人との多様な関わりを通して、育ち合うことができる幼稚園
- (5) 子育てを楽しみ、子どもにとっての憧れとなるために、
大人自身が自ら考え、いきいきと行動し、笑顔が響き合う幼稚園



教育目標

よく考えて遊ぶ子 … 自発性と試行錯誤を大事にした「豊かな遊び」

幼児期にふさわしい遊びが展開できる環境を整え、そこに幼児が関わり生まれる遊びを共感的に受け止め、豊かな学びにつなげ、主体性を育む。

思いやりのある子 … 豊かな人間性につながる「人との関わり」

豊かな人間性につながる社会生活における望ましい習慣や態度、他者への思いやり、協同の精神や人権尊重の精神を育む。

心も体も元気な子 … 心身ともに健やかに「しなやかな心とたくましい体」

健康や体力につながる基本的な生活習慣や進んで運動しようとする態度を養うとともにどんな状況も前向きに捉え、日々の遊びや生活を楽しむ構えを育む。

2 中期的目標と方策……………

(1) 子どもも大人も、安心して最高のパフォーマンスが発揮できる環境づくり (環境による教育)

- ① 3年保育が始まって12年目。3階までの園舎になって8年目、子育てサポート保育が始まって7年目を迎える。この6年間に日々の環境整備はもちろん、教育委員会とも連携し、園内外の改修工事を数多く実施し、安全で快適な環境づくりをしてきた。恵まれた環境を生かして、保育実践を更に充実させるとともに、安全・安心な遊びや生活のための動線の確保を進める。「がくぶり」はPTAが契約を継続してくれ、新しい園務支援システム「コドモン」と合わせて、日々の連絡や園務などの効率を高め、教職員の働き方改革を進め、最高のパフォーマンスを発揮できる基盤をつくり上げる。
- ② 子どもが自ら環境に働き掛け、主体的に遊びや生活を創り出していくことができるよう、きれいで使いやすく片付けやすい保育環境(保育室、教材室・倉庫、職員室、ICT環境も含め)と豊かな自然環境を生かし、今ある環境に手を加えて、魅力を発揮させていく。
- ③ 保護者が肩の力を抜いて、子育てや幼稚園生活を楽しみ、自己実現をしながら子どもの育ちを喜び合う仲間となるために、双方向の情報発信や連携を工夫する。

(2) 確かな保育理念と主体性を育てる理論と実践力を備えた教師集団づくり (教育は人なり)

- ① 担任だけでなく、多くの教職員が保育に関わる環境の中で、全ての教職員が、子どもと教師との応答的なやり取りを大切にする構えと子どもの背にそっと手を添える援助とその理念を身に付ける。それぞれの役割を確実に果たすことで、子どもたちと共に遊びや生活を創り出していく実践を推進する。
- ② 日々子どもとのやり取りや職務の遂行を通して、人として教師としての基本を学び、保育という営みの魅力とやりがいを実感し、感性を磨き、謙虚に学び続ける教員としての基本姿勢を確立する。
- ③ 乳幼児期から青年期までの発達を学び、長いものさしで幼稚園教育を考える視点をもつ。

(3) 青南幼稚園ならではの質の高い教育の創造 (地域の幼稚園)

- ① 南青山という独特な地理的・文化的な地域性、緑豊かな園庭など恵まれた自然環境などを生かした豊かな遊びや生活が展開できるよう創意工夫し、青南ならではの魅力を生かした教材開発をし、教育内容の更なる充実を図る。
- ② 季節の行事や自然との関わりを大切にする伝統を大切にする。
- ③ 日常的な異学年交流や生き物との関わりなどを通して、思いやり、感謝や憧れの気持ちを育てる。また、保護者や地域の方々との交流、保育園、小中学生など様々な人や物との関わりも、感染対策をしながら内容や方法を工夫して、できる限り実施し、心に残る体験が積み重ねられるようにする。



3 今年度の取り組み目標と方策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

(1) 環境に関わる取り組み (環境による教育)

① 環境についての基本姿勢の確立

保育室、園全体の醸し出す雰囲気、教師の服装や言動全てが、環境として幼児の育ちに大きな影響を及ぼすことを肝に銘じる。幼児と共に遊びや生活を創り出すためには、幼児と共に環境を整えることを徹底し、降園時には朝の状態に戻すことを基本とし、手入れの行き届いた環境を維持する。幼稚園教育の基本である環境による教育の重要性について、実践を通して体で理解し、指導の基本として確実に身に付ける。

- 降園時に朝の状態に戻すこと、整理整頓の確実な実行
 - ・保育室の環境整備は保育の第一歩という意識と日々の実践
- 環境に意図を込める習慣付け

② 新しい状況に対応した指導の工夫

3学級編成になり、空き保育室の活用や園庭での遊びの充実、異学年の関わりについては、やりやすくなった面が多い。一方で、安全・安心に関しては改めて工夫が必要になる部分もある。豊かな学びが展開できる環境づくりや指導や連携について知恵を出し合うと同時に、反省評価を確実にを行い、改善を重ねていく。また、コロナ禍で大人も子どもも3年間経験していない活動については、早めに準備し、無理のないように丁寧に進めていく。

- 園庭環境や園内の使い方、地域に開いていく活動についての工夫
 - ・幼児の実態に応じた遊びや場の使い方の工夫
 - ・久しぶりに行う活動への対応、預かり保育の運営の工夫
 - ・ひよこ組の改善、青南まつりや運動会などへの地域の未就園児の参加

③ 物的環境、文書管理の管理と進行管理の効率化

保育指導に関するパフォーマンスを上げるために、日常的に倉庫や収納スペースの管理を丁寧に行う。不要物品の廃棄や提出書類の締切や途中経過などを担当者以外も確認できるよう、進行管理の見える化と情報共有をPC内と紙資料を併用して工夫する。「がくぶり」や「コドモン」などICTを活用して、事務負担の省力化と働き方改革を図る。

- 園務分掌ごとの改善計画の提案と実施
 - ・「がくぶり」と「コドモン」の活用によるペーパーレス化と文書管理・事務処理の効率化
 - ・進行管理の見える化による情報共有

④ 自然物の活用、栽培活動の計画的な実施

遊びの充実や情操面の育ちを目指し、季節の変化を身近に感じることができる自然環境に恵まれていることを生かし、全教職員が協力しながら、園庭の遊具や草花などを手入れし、豊かな環境と清潔さや安全性を保っていく。青南幼稚園の自然環境を生かした保育が、SDGsにつながる保育であることを意識しながら実践していく。

- 自然と関わる活動の工夫と実践の積み上げ
 - ・自然や栽培に関する学びを広げる
 - ・定期的な教員による共同作業を通して身近な自然への働き掛けに関わる実地研修



(2) 教師の指導力向上に関する取り組み（教育は人なり）

① 教師としての基本的な構えの習得

子どもは、教職員の何気ない言葉や立ち居振る舞いの全てを吸収していく。「大事なことは小さなことの中に宿っている」ことを肝に銘じ、教師も子どもも日々の生活の中で繰り返す活動の中で、「小さなことに心を留める」ことを教師としての基本的な構えとして身に付ける。

○「小さなことにも心を留める」ことの意味の自覚

- ・笑顔で相手を見て挨拶する、ゴミが落ちていたら拾う、靴の脱ぎ履きなど大人がモデルとなる
- ・公的な施設を一年間借りているという意識の徹底、物品や施設を大切に扱う構えを身に付ける

② 一人一人の特性に応じた指導

個性豊かな一人一人の特性に応じた指導や学級経営の実現は容易なことではない。経験年数などに応じて記録の取り方なども工夫し、確実な幼児理解に基づいた保育実践を目指す。問題を一人で抱え込むことのないよう、学年会などでも相談しやすい状況を工夫する。保護者との連携はもちろん、園内の意見交換を活発にし、多面的な幼児理解につなげ、園全体として指導の方向性を共有できるようにする。子どもへの深い愛情をもち、思いやりの気持ちをもって支え合うことができるチーム力に感謝しながら、教職員がそれぞれの持ち味や得意なことを生かした保育を進められる運営をする。

○多面的な幼児理解と一人一人に応じた指導についての共有

③ 支え合いと学び合いによる指導力の向上

保育はチームによる連携プレイである。学年会の他にも、多面的な幼児理解をするために様々な立場の職員と定期的に意見交換ができる時間を確保し、指導の改善に役立てる。また指導計画については腹案の段階で、職員室などで話題にして相談、調整していく。子どもの背にそっと手を添える援助と集団を動かす際の指導法の基礎を身に付け、子どもと教師との応答的なやり取りを大切にする学級経営を継続していく。

○それぞれの得意分野の伸展と早めの相談による情報共有と指導の改善

④ 保育実践につながる園内研の充実

園内研では、「みんなで育てる、みんなが育つー相互理解を促す教育活動の工夫ー」をテーマに実践と研究を進める。昨年度までの自然との関わりをベースにしつつ、親子活動などで保護者と連携しながら取り組む中で、相互理解を深めていく。今年度の実態に合った活動を早めに提案し、幼児の育ちや学びにふさわしい取組を工夫する。

○保護者と共に活動する中で幼児教育への理解や相互理解を図る

⑤ 足育推進者としての意識の定着

引き続き、学体連の足育調査協力園として、貸与された靴を丁寧に脱ぎ履きする習慣を身に付け、足元からの健康づくりを進め、運動遊びの充実につなげる。



(3) 青南幼稚園ならではの教育の充実 (地域の幼稚園)

① 青南ならではの環境を生かした保育とその発信

ここ数年、受け継がれてきている自然を生かした遊びや生活に関わる取り組みを各学年の育ちや状況に応じて、学級経営の中に位置付けていくようにする。子どもたちと共に取り組む中で生まれる気付きや発見が遊びや活動を豊かにしていくことを教師自身が楽しめるようにしていく。日々の堅実な保育実践や掲示板やホームページなどからの発信が地域の未就園児親子に伝わり、園児数の増加にもつながるよう努力していく。

○自然環境を生かした保育の充実とその発信

- ・教職員の協力による自然環境の整備とできる範囲を越えない取組
- ・学級だよりやホームページ、掲示板などによる発信

② 体を動かす活動の充実

3学級になったことを生かして園庭を積極的に活用すると同時に、青南小学校第2校庭での活動も計画的に実施していく。日々の遊びや生活の中で鬼ごっこや競い合う遊びなど、多様に体を動かす機会が増えるよう実践を工夫していく。ボルダリングは安全対策を講じながら、条件の整ったときに使うようにする。

○体を動かす活動の積極的な実践

③ 学校運営協議会と様々な人との交流

今年度から青南小学校と合同での学校運営協議会が発足する。園の運営や交流や連携活動についても多くの地域の皆さんと協議していく。また、幼小合同研修会、青山アカデミーでの研究も含め、小中学校や保育園と一緒に学ぶ機会をもち、交流活動では子どもの育ちを相互に深める実践を工夫していく。それぞれの立場で、関連施設や地域の方々などと電話やメールなどで連絡をとる中で、教職員自身が個人的なつながりを構築する。

○今年度の状況で実現可能な保育園、小中学校との交流や連携

④ 無理なくできるPTA活動の工夫

今年度の実情に合わせて改善してきたPTAに関する相関図やガイドラインなどを全保護者と共通理解できるようにする。園児数が減っても、無理なくできる工夫をし、園主体とする取組とPTA主体で進める取組ともに丁寧に連携しながら取り組む。幼稚園と保護者が協力して子どもたちの育ちを支え、PTA活動を通して子育て仲間の輪が広がるようにしていく。

○少人数でも無理なくできるPTA活動の工夫

⑤ 保護者同士、保護者と幼稚園の連携

保護者による保育参加の機会をもち、親子で活動に取り組む体験を共有する中で、それぞれの子育ての振り返りや幼稚園教育の理解につなげる。

保護者が幼稚園に関する意見を気軽に発信できるようにがくぶりのアンケートを定期的に行ったり、親子活動などの場面でも双方向の情報交換ができるようにしたりして、保育や園の運営の改善に役立てる。学級懇談会、行事等で直接話し合う機会を大事にする。一方で、参加できない保護者にも正確な情報を共有できるよう、全体保護者会はZoomやYouTube 配信を活用していく。

○がくぶりアンケートの活用と情報共有のための保護者会の工夫